

あとがき

コロナ・パンデミックの只中で、『ルター研究』17巻をお届けします。
今巻は「宗教改革と疫病」特集号としました。

疫病の歴史は重く長いものがありますが、疫病に関する神学文献として、最も重要で必ず参照されるのが、ルターのいわゆる「ペスト書簡」（正式名「人は死から逃れることができるのかどうかについて」）です。従来、この文書の翻訳としては、故内海望先生の英語訳からの翻訳（ただし、部分訳）がありました（T・G・タッパート編『ルターの慰めと励ましの手紙』リトン、二〇〇六年、二八九―三〇七頁）。今回、多田哲先生にドイツ語原典より全訳をしていただきました。どうぞ、お読みください（なお、なにぶん五百年前の文書ですので、今日とはずいぶんちがう語感の言葉遣いや考え方もありますが、歴史的文献として忠実に訳していただきました）。

また、特集に関する論文として、所員である宮本新、立山忠浩、江口再起の各氏の論考を収録しました。

更に、石居基夫所員より、“*drei-Stände-Lehre*”に関する論文を寄せていただきました。このいわゆる「三機関

説」は、ルターの社会理論として「二王国論」と並んで最も基本となる神学概念ですが、わが国ではほとんど本格的に論じられてきませんでした。貴重な貢献になると思います。
どうぞ、いずれの論文もご熟読ください。

二〇二一年三月

ルター研究所長 江口 再起